



トトロ口石器を持つ坂野奈美ちゃん（当時2歳）



写真中央あたりが発見現場（現在の様子）

埋蔵文化財包蔵地 西原遺跡

History

キラリを再発見

本市最古の縄文遺跡

「西原遺跡」は、平成7年に当時2歳だった坂野奈美ちゃんによって発見されました。発見場所は自宅裏の茶畑。石器は長さ約7センチ、幅約4センチ、厚さ1センチとかなり大型で、チャートという石材を打ち欠いて作られています。表裏左右の全面が、摩滅してとろとろとした感触があることから、通称トトロ口石器と呼ばれています。正式名称は異形局部磨製石器。約8,000年前の縄文時代早期のものと推定され、本市最古の遺物。獣の皮をなめす道具だったという説が有力です。



遺物/異形局部磨製石器



Atomic

暮らしと原子力

シリーズ2

発電所の耐震対策

発電所は、原子炉建屋を安定した構造とするとともに、基礎を岩盤に直接設置し、地震による大きな揺れに備えています。また、揺れを感じると原子炉を自動停止させる機能も装備しています。

浜岡原子力発電所の耐震対策

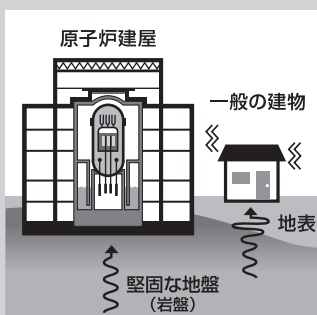
【原子炉の自動停止】

浜岡3〜5号機では、地下2階の地震計が120ガルの感知すると、原子炉が自動停止する仕組みになっています。

【地震に強い安定した構造】

原子炉建屋は、「厚い壁を的確に配置する」「基礎を広く厚くする」「屋根を軽く、重心を下げる」などの地震に強い構造としています。

壁の厚さは、原子炉建屋1階で約1・2メートル、約2メートルあり、重心が低く、非常に安定しています。



【基礎を岩盤に直接設置】

重要な機器や建物の基礎は、堅い岩盤の上に直接固定されています。岩盤上は地表面に比べて、揺れが2分の1〜3分の1程度になることが分かっています。

【大型振動台で実証試験】

安全上重要な機器は、(財)原子力発電技術機構多度津工学試験所(当時)の世界最大級大型振動台で、設計で想定した地震よりも大きな力で揺らし、安全性を確認しています。